

満洲ノねぢあやめトゆすらうめ



(満洲ニテ撮影)

野生セルねぢあやめ (*Iris ensata* THUNB. var. *chinensis* MAXIM.)

ラ言ヘバ始メカラ左様ニ思フナラ専門  
家ヲ煩ハス必要ハ少シモナイノデア  
ル、斯イフ不遜ナ人ハ單ナル天狗トン  
テ取扱フコトハ出來ナイ、牧野先生ナ  
ドハ常ニ多クノ地方人ト交通シテ居ラ  
ル、カラ定メシ多クスイフ場合ニ際會  
シ困ツテ居ラレルコト、推察シマスガ  
私等同人ハ其様ナ人ハ一蹴シテ今後如  
何ナルコトアリトモ交通ハシナイ迄デ  
アル、敢テ専門家ノ聲トシテ地方同好  
者ノ御参考迄ニ一言シテ置ク次第デア  
リマス

## ○満洲ノねぢあやめ ゆすらうめ

理學士 大賀 一郎

### ○ねぢあやめ (馬蘭)

南満洲ノあやめ科植物デ最モ早ク花ノ  
咲クノハコアヤメト稱セラル、一種デ



(満洲ニテ撮影)

野生セルゆすらうめ (Prunus tomentosa THUNB.)

アル年々四月中旬から同ジク下旬ニカケテ丘陵地ノ日當リノヨイ處ニ見ラルゝ、之レニ續イテ五月上旬カラ同ジク中旬下旬ノ間ニねぢあやめ (*Iris ensata* THUNB. var. *chinensis* MAXIM.) ガ未墾ノ荒地ヤ路傍ニ一面ニ咲ク、想フニ現今耕作セラレテ居ル廣イ々々高梁烟ノアル處ハ其昔此ねぢあやめノ花ノ烟デアツタデアラウ、支那人ハ之レヲ馬蘭又ハ馬蘭ト謂ツテ花モ實モ共ニ葉ニスル、又葉ハ編物ヲ製シ根デハ「プラシ」ガ作ラレル、此馬蘭ノ實ヲ蠶實ト稱シ葉ガネヂレテ居ルカラねぢあやめノ和名ガアル

## ○ゆすらうめ

なし（四月下旬開花）ガ半野生ノ状態ヲナシテ居リ又丘陵地ニハゆすらうめ（*Prunus tomentosa* THUNB.）（四月中旬開花）ヤコにはわくら（*Prunus humilis* BUNGE.）（五月上旬開花）ガ野生シテ居ル、樹木ノ少ナイ殆んど裸ノ満洲ノ丘陵ヤ溪谷ノ春ハ此等ノ樹々ニヨツテ美ハシク彩ラルヽノデアル、前頁ニ掲グル寫眞ハ野生ノゆすらうめデ大連附近ノ地ニ生ジテ居ルノヲ撮影シタモノデアル日本ノ内地ニハゆすらうめノ野生ハナク唯栽植セラレテアルノミデアル、之レヲ櫻桃トスルノハ固ヨリ誤リデアッタ、ゆすらハ朝鮮語デ元來同屬中ノ別ノ植物ノ名デアル

## O・うばゆりトおぼうばゆり

久 内 清 孝

米國アーノルド樹木園ノエルネスト、ウキルソン氏ノ近著『東亞ノ百合』ヲ見ルトうばゆりトおぼうばゆりト一括シテ一種トナシ且ツ此迄通リ *Lilium* 屬ニ入レテ居ル

元來うばゆりトおぼうばゆりトハ曩ニ牧野氏ガゆり屬ト分離シテ *Cardioerium* ナル新屬ヲ設定シ之ニ配屬セシメタモノデコノ兩種ハ截然區別シ得ラレ前者ヲ *C. cordatum* MAKINO. 後者ヲ *C. Glehnii* MAKINO. トセラレタルハ既知ノ事實ニ属スル而シテおぼうばゆりハ全形壯大、葉狀短圓、花ハ前者ニ比シ小且ツ多數デアル、サレバコノ二者ハ明カニ兩分シ得ラルヽモノデウキルソン氏ノ説ノ如ク固ヨリ混同スペキモノニアラザルヤ明カルニ氏ハ其異同ヲ辯ズルコト能ハザリシモノト見エ汎然ト此等ヲ一種トシタ、吾人ハ氏ガ何程ノ理由ニ基キスク爲セシカラ怪ミウ氏ノ爲スガ如ク自國語ニテ遠吠ヲ試ムルコト如此ダ、ソシテ茲ニおぼうばゆりノ寫眞圖ヲ掲ゲ置ク是レハ相州箱根山デ撮影シタモノデアル、此種ハ花ガ澤山著イテ稍小サク葉ハ闊大デ圓イ西洋ノ學者ハ久シキ以前カラおぼうばゆりヲうばゆりト思違ヒヲシテ居リ今日デモ尙其非ヲ悟ラザルコト前述